

◆部門別動向

米

本県の稲作は、4月に田植えをして8月に出荷する県東部地域を中心とする早期栽培から、7月初めまで田植えをして10月に出荷する県北部地域の麦あと栽培など多岐にわたり、それぞれの地域の条件を生かした米づくりが展開されています。

本県で育成した「彩のきずな」は、夏の暑さにも病害虫にも負けないおいしいお米として、同じく本県で育成された「彩のかがやき」とともに、多くの県民から支持されています。

また、令和4年育成の新品種「えみほころ」は、粒が大きく食べるとしっかりとした粒感があり、米の甘さもちょうど感じられるのが特徴です。暑さや病害虫にも強く、今後さらに生産が拡大される予定です。



■地域別 水稲栽培方法

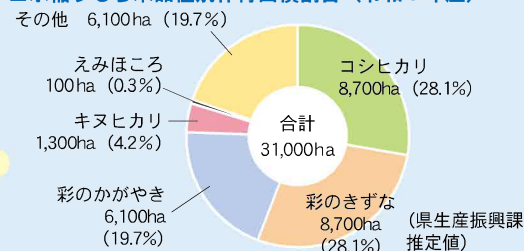


■[令和7年産(水稲)]

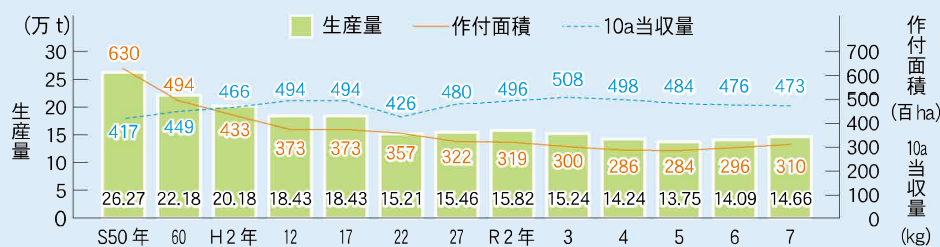
作付面積	生産量
31,000ha (全国第16位)	146,600t (全国第19位)

(農林水産省「作物統計調査」)

■水稲うるち米品種別作付面積割合(令和7年産)



■水稲生産の推移



(注) 陸稲を含まない(農林水産省「作物統計調査」)

麦・大豆

本県は麦の主要な生産県となっており、中でも小麦については、これまで製粉業界等の実需者から比較的高い評価を得てきました。

このため、県では、今後とも実需者の要望に応えられるよう高品質な麦の生産技術の普及・定着やパン用小麦など新たな需要に対応した品種の導入を図るとともに、規模拡大等による生産性の向上を推進しています。

大豆は、麦とともに水田における重要な転作作物として生産されてきました。近年、農商工連携の取組により加工品が開発され、一部の地域では特徴ある在来品種が栽培されています。

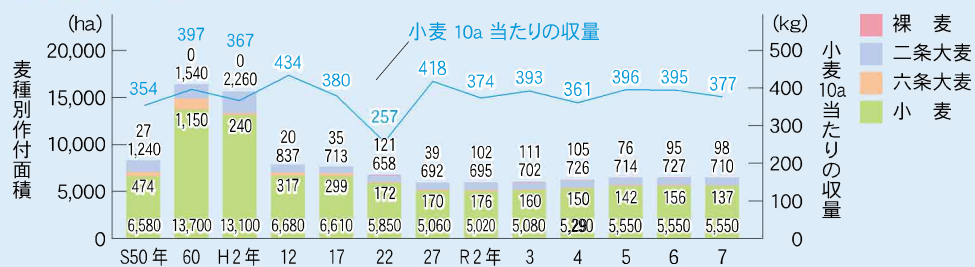
また、平成23年度から本格実施されている経営所得安定対策の活用により、麦・大豆の一層の生産拡大を進めています。

■令和7年産

	作付面積	生産量
麦類	6,495ha (全国第10位)	24,442t (全国第10位)
大豆	611ha (全国第29位)	379t (全国第30位)

(農林水産省「作物統計調査」)

■麦類生産の推移



(農林水産省「作物統計調査」)

野菜

本県の野菜生産は、農業産出額の約半分を占め、主要な作目となっています。主な産地は、さとひもやほうれんそうなどの産地である入間地域、ねぎやブロッコリーなどの産地である大里地域、なすやレタスなどの産地である児玉地域などです。

また、冬季の豊富な日照を生かした施設栽培も盛んで、大里・児玉・比企・北埼玉地域を中心に、きゅうりやトマト、いちごなどの栽培が行われています。近年、いちごの生産では、県育成品種である「あまりん」「かおりん」「べにたま」の作付面積が拡大しています。

県では、露地野菜を対象とした機械化一貫体系の導入による生産拡大、施設野菜を対象としたICT等先端技術の導入による生産性向上や省力化を進めています。

令和6年産

収穫量
341,245t

(県生産振興課調べ)

機械化一貫体系の導入による効率的な作業体系の構築



ねぎ収穫機の活用による生産拡大

ICT等先端技術を使った施設園芸



低コスト耐候性ハウス

主な野菜の作付面積（令和6年産）



(農林水産省「野菜生産出荷統計」)

果樹

本県の果樹生産は、なしが果実産出額の約5割を占め、全国第8位（令和6年）となっているほか、ぶどう、くり、うめ、かき、ゆず、すももなど多様な品目が生産されています。

また、近年ではブルーベリー、いちじくなどの生産も行われています。

令和7年産

品目	作付面積	収穫量
なし	296ha	4,800t
ぶどう	120ha	1,030t
くり	356ha	402t

(農林水産省「果樹生産出荷統計」)



本県が育成した大きくて甘いなし「彩玉」



作付面積が増えている「シャインマスカット」

茶・特産物

本県の特産品である狭山茶は、入間市、所沢市、狭山市を中心とする県西部地域において栽培されており、農家自ら生産から販売までを行う形態が主流となっています。

また、繭、こんにゃくなどの特産物は、県西北部の中山間丘陵地域において、気象・土地条件を生かした特徴ある産地づくりが行われています。

令和 7 年

	栽培面積	生産量(収穫量)
茶	690ha (全国第 8 位)	生葉 4,070 t (全国第 8 位)
繭	—	1 t (全国第 5 位)
こんにゃく	4 ha	15 t

(茶 : 農林水産省調べ
繭 : (一財)大日本蚕糸会調べ
こんにゃく : 県生産振興課調べ)



伸びる狭山茶の新芽



出荷する繭の選別(選除繭)

畜産

本県の畜産は、野菜、米と並んで本県農業の基幹部門となっています。

近年は、ICTを活用した生産の省力化や病気の予防による生産コストの低減、付加価値の高い特色あるブランド畜産物の生産・販売も行われています。

また、生産県であると同時に大消費県であるという本県の特性を生かし、ふれあい施設や直売施設を設置するなど工夫を凝らした経営や、消費者との交流に積極的に取り組む経営もみられます。

令和 6 年

	飼養頭羽数
乳用牛	6,360 頭 (全国第 25 位)
肉用牛	17,400 頭 (全国第 33 位)
豚	75,600 頭 (全国第 26 位)
採卵鶏 (成鶏めす)	2,046 千羽 (全国第 23 位)

(農林水産省「畜産統計」) ※令和 6 年 2 月 1 日時点



哺乳ロボット



県オリジナル卵肉兼用鶏
「タマシャモレット」

特用林産物

本県で生産される特用林産物は、しいたけ等のきのこ類を主として、木炭、タケノコなど多岐にわたっています。生しいたけの生産量は、昭和 55 年の 2,372 t をピークに、長期的に逡減しています。

また、平成 10 年以降は、菌床栽培が原木栽培の生産量を上回るようになってきています。

県では、しいたけなど特用林産物の生産基盤を支えるため、きのこの原木や菌床用培地の生産資材の導入支援を行っています。

令和 6 年

	生産量
きのこ類	4,365t
木炭	0t
タケノコ	2 t

(林野庁「特用林産基礎資料」)



しいたけの原木栽培



しいたけの菌床栽培

花・植木

本県の花植木生産は、深谷市を中心とする県北地域のユリやチューリップなどの球根切り花、「安行の植木」として全国に名を馳せる県南地域の植木・盆栽類、鴻巣市などを中心とした鉢花や花壇用苗物、県内各地の洋蘭鉢物など全国でも有数の産地を形成しています。

近年では、アジサイやポインセチアが児玉地域を中心に生産され、全国トップレベルの技術を確立しています。

県では、花植木の需要拡大を図るため、花植木大商談会等の普及啓発活動を支援しています。また、県が育成した芳香シクラメンの安定生産やLEDを利用した花きの高品質生産の取組、夏に適した品目の導入支援や県産花きを使用した啓発展示を推進しています。

令和5年産

栽培面積

630ha

(農林水産省「花き生産出荷統計」及び「花木等生産状況調査」)



県が育成した芳香シクラメン



花植木大商談会



消費拡大プロモーション

水産

本県の水産は、養殖業と河川漁業に分けられます。養殖業については、キンギョ・ニシキゴイなどの観賞魚が主体で、本県は全国でも有数の生産県となっています。

また、ホンモロコやナマズなどの食用魚も水田を利用して生産されています。特に、ホンモロコについては、販路拡大を図るため、子持ちホンモロコの生産など付加価値の向上に取り組んでいます。

河川漁業については、釣りが県民のレジャーとして定着しており、漁業協同組合が魚類の増殖等を図るとともに、河川や湖沼等の漁場を管理しています。

令和5年産

漁業養殖業生産量

203t

(県生産振興課調べ)



キンギョ



ホンモロコ



アユ釣り風景